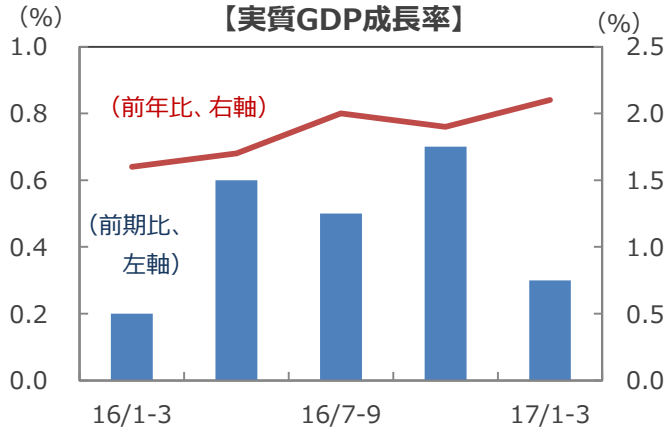


今日のトピック 最近の英国経済・市場動向 (2017年5月)

堅調な景気、ポンドの上昇は続くか？

ポイント1 依然堅調な経済成長

- 英国は昨年6月の国民投票でEU（欧州連合）離脱（Brexit）を選択し、その影響で景気の減速が懸念されていましたが、これまでのところ堅調な経済成長が続いています。
- 4月28日に発表された2017年1-3月期の実質GDP成長率は前期比で+0.3%と、10-12月期の+0.7%から減速しました。Brexit選択後のポンド安によってインフレが進み、実質所得の伸びが鈍化した影響とみられます。ただし、前年比では+2.1%としっかりとした伸びを見せました。



(注) データは、2016年1-3月期～2017年1-3月期。(年/月期)
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 今後も底堅い成長継続へ

- イングランド銀行（BOE、イギリスの中央銀行）は、11日の金融政策委員会で金融政策（政策金利や量的緩和の規模）を据え置きました。今後、ポンド安の影響が薄れるにつれ、インフレが落ち着くと見られるためです。
- 最新の経済成長見通しによると、BOEは、2017年は前年比+1.9%、2018年、2019年は同+1.7%と底堅い成長が続くと見込んでいます。



(注) データは、2016年1月3日～2017年5月11日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 今後のEUとの交渉に注目

- ポンドはBrexitへの懸念により2016年前半は下落傾向にありました。2016年10月以降は、対円では円安が進んだことや、今年6月に行われることとなった総選挙での与党保守党の勝利への期待を反映する形で上昇に転じています。
- 今後は、総選挙の結果や、EUとの交渉の影響を受けると見られます。EU側の厳しい交渉姿勢が報じられていますが、実際の交渉が多少なりともスムーズなものとなれば、ポンド上昇の要因となる可能性があります。

ここもチェック! 2017年4月26日 英国の「総選挙」、6月に前倒し実施へ (英国)
2017年2月 3日 BOEの金融政策 (2017年2月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。